

いぬはりに 環境 整備



まさかの事態に備えて見直したい

安全ですか？ 園児の環境

CASE ①

耐震診断後の補強工事で
“もしも”に備える園舎づくり

CASE ②

35周年を迎えて建て替えた、
快適で安全な新園舎

“子どものプロ”が手がける幼稚園・保育園の安心設計

「すべては子どもたちのために」の志をカタチに

まさかの事態に備えて見直したい

安全ですか？ 園児の環境

毎日が楽しくて心地よい、ゆとりのある園舎環境は、園児が初めて経験する社会生活の場として重要なもの。園生活を通じて健やかに成長するためには、園児を取り巻く環境が安全であることが基本です。
安全対策には園舎の老朽化、防犯、防災などさまざまな課題がありますが、今回は自然災害である「地震」に対する園舎づくりを考えましょう。



2



突然やってくる大地震
81年以前の建物は要注意!

1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災。死者6433人、負傷者43792人というすさまじい規模に、日本中の誰もが地震の怖さを思い知らされました。地震の発生原因となる4プレートに接し、多くの活断層を抱える日本は、まさに地震大国です。その事実を認識し、政府は建物の設計に関して、以前から危機感を持つていました。そのため建築基準法の施行やその改正を経て、大規模地震に対しても建築物を崩壊させず人命を保護できるよう、81年に「新耐震設計法」を制定しました。阪神淡路大震災では、新耐震設計法導入以前の建物の被害が圧倒的に多かったことから、81年以前の建物は地震時、大きな危険をばらんでいると考えられます。

たくさんの方の命を守るため、
建物の改修を呼びかけ

阪神淡路大震災の教訓から、政府は耐震改修促進に向けたさまざまな法律を作りました。この地震の同年には「耐震改修促進法」を制定。さらに06年には、より多くの建物に改修の努力義務を課すため同法を改正しました。また「耐震化率を2015年までに少なくとも9割に」という目標をもうけて、改修の必要性を地方自治体と呼びかけていますが、到達するのが難しい現状です。政府も震災の危険性を通達するだけでなく、耐震改修に関する予算を組み、改

4

あたしたちも、そういう園舎になれたらいいな。
 いったいどうすればいいの？



安全・安心な園舎は、園児たちに笑顔で楽しく心地よく過ごしてもらうために、とっても大事なことだよ。



3

大丈夫。事故を未然に防ぐ工夫をこらしたり、行くのが楽しくなるようなトイレにしてみたり、突然の災害にも安心な園舎に生まれ変わらせることだってできるよ。

まず今回は、園舎を地震に強くする方法から教えてあげよう。

5



おしいて！

やったね

うれしいな

修の際の補助金等も用意して、対策を考えています。
安全な園舎を目指し、まずは耐震診断を

しかし、81年以降の建物でも、本来に必要な耐震性能があるかどうかはわかりません。そこで重要なのが「耐震診断」です。耐震診断の目的は、建物の構造的強度を調べ、地震に対する耐久性を判断すること。診断で補強が必要との結論が出た場合、建物に合わせた耐震補強設計をし、補強工事を行います。ジャクエツでは、耐震補強に合わせてトイレや保育室など各施設の改修についてもご提案し、耐震補強と同時に設計や施工を進め、より快適な園舎づくりに努めています。
 まさかの事態が起こる前に、園舎の現状や危険性を認識し、園児たちの安全環境を見直してみませんか。

CHECK!

耐震診断のフローチャート



耐震性を
見直したい



青空にひときわ映える、真っ白な園舎。ここで毎日、たくさんの園児たちが元気いっぱい園生活を過ごしています。今回の工事では、園舎全体の耐震性能を高めるだけでなく、園児たちがより使いやすく、過ごしやすいような工夫をあちこちに取り入れ、今後も長く愛される園舎づくりを心がけました。

工事中



みんなの園舎を支えている大事な柱を、しっかり補強。柱に炭素繊維を巻くことにより、強度が大幅にアップ。見た目は以前と変わりませんが、丈夫で強い柱になり、園児たちの安全を見守ります。

After



「もしものとき、私たちの園舎は子どもたちを守るの？」
園長先生の疑問が、園舎の耐震強化につながりました。

神奈川県横須賀市 南横須賀幼稚園様

耐震診断後の補強工事で ”もしも”に備える園舎づくり

世界でも類を見ない地震大国といわれる、日本。

工事中



園舎の壁を部分的に補強工事。壁の中に鉄筋を組みこむことにより、耐震性能を高めています。柱と同様、見た目にはあまり変化はありませんが、安心感のある頑丈な壁に生まれ変わりました。



After

四川大地震のニュースから
園舎の補強工事を決意

1969年に創立された南横須賀幼稚園。緑豊かな自然に囲まれ、海にもほど近い、恵まれた環境の中、園児たちは毎日のびのびと園生活を楽しんでいます。

長澤典子園長先生は、園舎の耐震について考えるようになったきっかけを「2008年5月に起こった、中国の四川大地震のニュースを知ってから」と話します。連日くり返し、テレビや新聞で報道される大地震の被害状況で、学校や幼稚園などが倒壊し、たくさん子どもたちが犠牲になった様子を目の当たりにし、心を痛めたといいます。

「何かがあってからでは遅い。大切な子どもたちを預かるためには、生活の基本である建物の安全が第一です。県からも耐震対策のための補助が受けられることもあり、まずは耐震診断をお願いすることにしました」

2008年の暮れから09年の3月にかけて診断した結果は、耐震のための補強工事を要する、というものでした。「さっそくジャクエツさんに相談し、耐震補強工事だけでなく、これまで使い勝手の悪かった場所や、子どもたちにとって過ごしやすい環境にするための改修なども合わせて依頼しました」

部分的に壁と柱を補強して
耐震性能を大幅に強化

今回の工事期間は、7月下旬から8月31



改修した1階トイレ（下）と2階トイレ（上）。広くて明るいスペースになり、園児たちにも好評。園のテーマカラーが壁のデザインになりました。



After



Before

以前はあまり光が入らず薄暗いイメージの保育室が、改修工事によって明るく開放的な室内に。耐震性を持たせるだけでなく、より快適で機能的な空間になりました。

After



「今回の工事をきっかけに、今後もより安全な園舎づくりを心がけていきたい」と語る、長澤典子園長先生

日までの、夏休みを利用した約1ヶ月です。工事のおもな内容は、園舎の部分的な壁に鉄筋を入れ、柱に炭素繊維を巻いて強度を増すとといった補強や、保育室やトイレ等の改修です。

壁や柱は、施工後も外見上、以前とあまり変わりませんが、補強工事によって、園舎全体が耐震性の高い、頑丈な建物に生まれ変わりました。屋内の改修では、壁の補強に加えて保育室のスペースが広がるなど、園児たちがより快適に安心して過ごせる明るい空間ができました。

また、トイレには南横須賀幼稚園オリジナルのテーマカラーを壁のデザインとして取り入れ、遊び心いっぱいの楽しい場所に。すぐに園児たちの人気スポットになりました。

「思いきって耐震診断と補強工事をして、本当によかった。今は安心して子どもたちと毎日を過ごしています」と語る、長澤園長先生。"いつものまにか、えがおです"という園のキャッチフレーズどおり、園児たちや先生方の笑顔がずっと輝きを失わないように。生まれ変わった丈夫な園舎は、これからずっととみんなとともに園の歴史を刻みます。

35周年を迎えて建て替えた、 快適で安全な新園舎

神奈川県川崎市 東菅幼稚園様

安全を
総合的に
考えたい

園児たちが毎日過ごす園舎は、わが家と同じくらい大切な場所。
いつも笑顔で思いきり遊べる、安全な環境をつくりたい——
みんなの思いがたくさん詰まった、居心地のよい園舎ができました。



自然がいっぱいの広い園庭から園舎をのぞむ全景。園児たちがのびのびと健やかな毎日を送っています。



園舎のシンボルのからくり時計
(左)と1階外廊下に設置され
ている奥村羊一・作「おひさま
タッチ」(右)。園児の目の高さ
にある愛嬌いっぱいの石像は、
みんなの人気者です。

老朽化した園舎を
過ごしやすく安全な環境に

「いっぱい遊ぶ」が育ちのきほん。東菅幼稚園のスローガンです。その言葉通り、先生も園児たちも、みんな明るく元気いっぱい。園舎のあちこちで、いつも笑い声が響いています。2008年の春、創立35周年を迎えた年に、東菅幼稚園は建て替え工事を開始し、09年1月、新築の園舎へと生まれ変わりました。長年にわたり園児たちを見守り続けた愛着のある旧園舎でしたが、年月を経て老朽化が目立ち、使い勝手の悪い場所や雨漏りなど、次第に多くの問題を抱えるようになりました。

「建て替えを決意したのは、老朽化が第一ですが、大切な子どもたちをお預かりする立場から、大地震などの災害も意識し、より安全な環境をつくりたいという願いもありました」と、理事長兼園長の佐保田智子先生は建て替えの経緯を振り返ります。

3年間の計画・準備を経て 新築工事がスタート

実際の工事着工は08年春ですが、建て替え計画や準備を本格的にスタートしたのは、工事の開始から約3年前にさかのぼります。新園舎の設計や内装、レイアウトなどの決定をはじめ、8ヶ月間の工事に関して保護者や地域への説明会、仮園舎の準備など、さまざまな過程がありました。園長先生をはじめ先生方、保護者や園児たちも一致団結し、ワクワクしながら新園舎の誕生を迎えました。



内階段は、園児の動きや安全を考慮した、緩やかで歩きやすい設計。階段室の窓を彩る動物モチーフのステンドグラスはみんなを笑顔にしてくれます。

「暗くて怖い」トイレが、
お気に入りの場所に変身！

新園舎には、先生方とジャクエツがじっくり話し合ってた考えた、多くのこだわりがあります。たとえばバスの駐車場。「園舎の外に出なくても乗れるように」と、悪天候の日でもあせらず落ち着いて乗り降りできる、園舎内の駐車場ができました。また、トイレは、以前の「暗くて怖い」場所から、明るく開放的な空間になり、特に2階のトイレは今ではみんなのお気に入りの場所に。ほかにも、園庭でのびのびと駆け回る園児たちの様子がよくわかり、動きやすくてゆとりのある職員室、1階エントランス近くのゆったりくつろげる絵本コーナーなど、園舎全体が生まれ変わりました。

東菅幼稚園35周年記念シンボルツリーである「くすの木」のように、すくすく育っていく園児たち。新園舎には明るい笑顔が満ちています。



1階の外廊下(下)と2階の外廊下(上)。下足で歩くゴムチップ舗装と上履き用のウッドデッキを平行に設置し、各保育室まで下足のまま保護者と一緒に登降園できます。



園舎機能の中枢となる職員室。エントランスや園庭、バス乗り場などを見渡せる場所にあり、安全が強化されました。



トイレは、上履きの履き替えがいらぬ衛生的なドライ床を採用。廊下との段差をなくし、開放感いっぱい空間に。明るく温かみのあるトイレになりました。

新園舎に生まれたゆとりは、
みんなの心のゆとりにつながっています

エントランスのブロンズ像
北村西望・作「おかあさん」。
本物の芸術を身近に楽しめます。



2階遊戯室。園恒例のリズム発表会に対応するため、本格的な舞台装置を完備。天井をやわらかな曲面とし、明るく広々とした空間になりました。



園児や保護者、お客様など、訪れる人たちを温かく迎える大空間のエントランスホール（上）と、隣接したピロティー式のバス駐車場（下）。園舎内に直結しているため、雨にぬれずにバスでの登降園が可能になりました。

Interview

●お話をうかがった方●

東管幼稚園
理事長兼園長
佐保田智子先生

——新園舎での生活はいかがででしょうか。さまざまな面で使い勝手がよくなりました。園舎内に設けたバスの駐車場や、明るく楽しい場所になったトイレ、スペースが広く使える遊戯ホールやバルコニーをはじめ、全体が快適でゆとりができ、とても満足しています。

——ジャクエツに設計を依頼された理由は何でしょうか。

最初はおかの業者さんも検討したのです

が、企画段階からジャクエツさんの提案が充実していました。快適な環境づくりだけでなく、安全・安心も考えた、さまざまな面からトータルで設計を任せられることを踏まえて依頼しました。また、営業担当の方が、園を訪れるたびに細かい相談にも快く応じていただき、人柄を信頼してお任せした部分もたくさんあります。

——大きな地震が多い昨今、新園舎で特に安全面を考慮したのはどの部分でしょうか。

新築を機にピアノの転倒防止バンドを各部屋の壁に取り付けたり、家具を造りつけにするなど、しっかり固定しました。階段も以前より緩やかになっています。

——園児たちや先生方の反応はいかがでしょうか。

明るく快適な空間でのびのび過ごせるようになり、子どもたちにはますます笑顔がふえました。安全面にも考慮したことで、ちよつとしたケガも少なくなりましたね。また、職員たちにとっても、動きづらい、スペースが狭いなどのストレスがなくなり、より日々の保育に専念できるようになりました。新園舎を、みんなできれいに、大切に使っていきたいと思っています。



「快適な園舎を保つため、日々の整理整頓を心がけています」と語る佐保田理事長兼園長。

「すべては子どもたちのために」 の志をカタチに

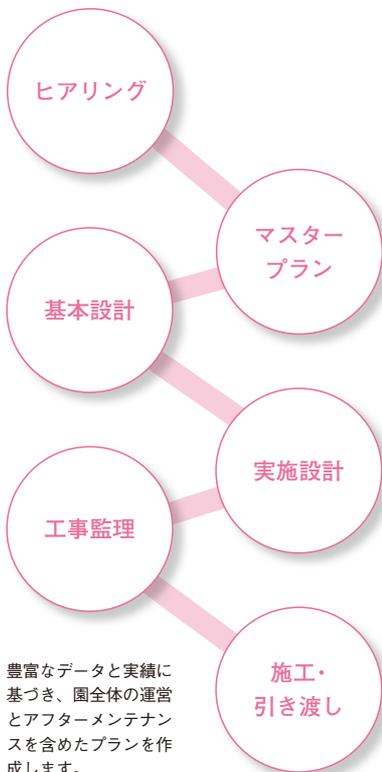
“子どものプロ”が手がける幼稚園・保育園の安心設計
ジャクエツ環境事業一級建築士事務所

日本全国にある幼稚園・保育園のさまざまなご要望を受けとめ、18年に渡り園児たちの安全で快適な環境づくりに奔走し、これまで数々の実績を残してきたジャクエツの建築設計。「ゆとりのある文化的な施設づくり、未来を見据えた環境づくりを目指し、園舎設計にとどまらず保育環境のすべてをご提案します」と建築設計部の坂東正部長は語ります。



株式会社ジャクエツ環境事業
取締役 建築設計部 部長
坂東 正

■設計のプロセス



1991年に設立し、全国6ヶ所の拠点をもつジャクエツの建築設計事務所は、これまで200園近い設計実績があります。手がけてきた設計プランは、各園に合わせたオリジナルで、2つとして同じものはありません。それぞれの園独自のテーマをもつ、希少性のあるプランをご提案しています。ジャクエツ設計の強みは大きく分けて3つあり、「幼稚園・保育園に特化してきたノウハウの蓄積」「本社モニター園や実績園のネットワークによる生きた情報網」「ジャクエツ全部門の総力を集めた、園児の生活環境や園舎全体のトータルコーディネート」と考えています。

設計スタッフの仕事は、事務所の机で設計図面を描くだけにとどまりません。園に何度も足を運んでご要望をヒアリングし、現場の調査を重ね、設計プランの

作成とご提案、工事中の監理、完成後の確認やフォローなど、お客様とコミュニケーションをとりながら、設計にまつわるさまざまな園舎プロデュースに携わります。2007年には、モニター園の事故ヒヤリハット情報を活用した「安全な子ども環境への取り組み」が、第1回キッズデザイン大賞【経済産業大臣賞】を受賞しました。今後もより安全で快適な園舎を目指し、居心地のよい保育環境、セキュリティや地球にやさしい仕組みづくりなど、時代の流れにフィットした提案を心がけ、お客様の夢の実現をサポートいたします。

環境事業サイトがオープン!

<http://www.jakuetsu.co.jp/arch/>



NEWS

「すべては子どもたちのために」をテーマに取り組むジャクエツ環境事業の実績を紹介しています。

愛媛県

学校法人大村学園
椿幼稚園様

閑静な住宅街に建つ大規模幼稚園。大きな施設の中で園児が多種多様な景色や空間を感じ取れるように、さまざまな形を組み込み、ユニークな空間づくりを心掛けました。光と風が行きかう環境づくりを目指し、園舎の中央に位置するデッキ敷きの中庭には、階段やデン、図書コーナーなどを突出させることで、特徴的な形状の空間が生まれました。また、認定こども園として運営面に配慮した平面計画となっています。



笑顔があふれる
元気が生まれる
成長を育む
新園舎

実績例

兵庫県

社会福祉法人
西脇保育所様

「夢のある園舎」を目指し、吹抜階段とその吹抜空間を利用した全天候型大型総合遊具「アスレチックタワー」を設置。遊具と建築が融合したユニークな空間演出が評価され、09年第3回キッズデザイン賞(商品デザイン部門)を受賞しました。幅広い年齢の子どもたちが、それぞれ楽しみながらチャレンジできるようにさまざまな要素が組み込まれています。遊具で遊ぶ子どもたちの姿は、南側にある国道からも垣間見られ、それ自体がモニュメントのようになっています。



栃木県

社会福祉法人
虹(ゆずりは)
けやき保育園様

内装に杉、桧、ヒバなど多種の木材をふんだんに使い、アクセントとして、虹の7色のテーマカラーを○◇☆などのモチーフと組み合わせでちりばめました。4ヶ所あるトイレはそれぞれテーマをもたせています。写真は「海のトイレ」。手洗い場の前の壁は、タイルで海の色と波を、丸窓でおひさまを表現しました。天井形状を工夫したり、トップライトや高窓を設置して、明るい園舎としました。



埼玉県

学校法人熊井学園
愛宕幼稚園様

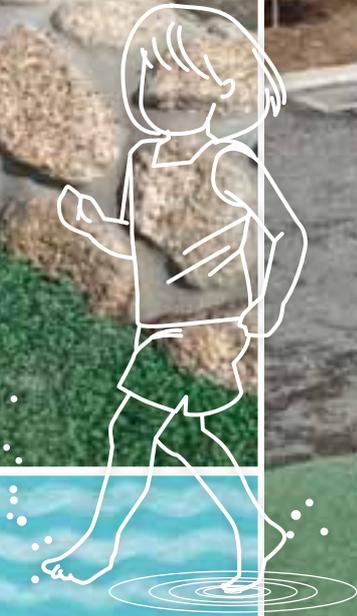
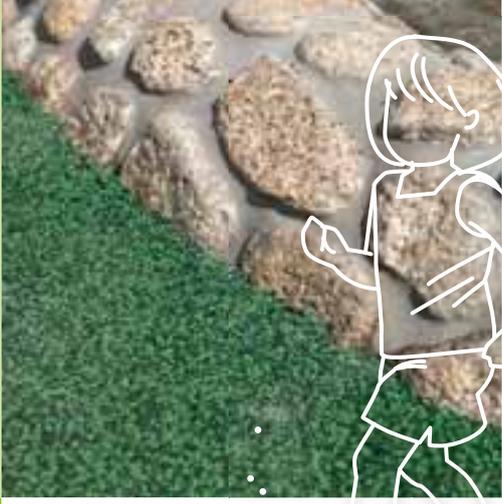
まるでホテルか美術館?と見紛うようなシックで洗練された園舎づくりが特徴です。子どもたちを迎えるエントランスホールには、円形の二層からなる吹き抜けをつくり、落ち着きと風格のある空間に。ペンダント照明から柔らかい光が落ちる床には、石とタイルによるデザイン貼りを施しています。壁は大振りのタイルを貼り込み、受付カウンターや下足箱も色調を落として格調の高さを演出しました。

大阪府

学校法人寺西学園
交野幼稚園様

セキュリティ面を考え、職員室から園庭の子どもたちの様子がよくわかり、来客などを管理しやすい環境づくりにこだわりました。1階の廊下はウッドデッキの開放廊下とし、園庭と一体感のある空間にしました。デッキに砂が入りにくいように、園庭との間はゴムチップ舗装としました。階段、トイレやライブラリーコーナー等のパブリックな用途を各階2ヶ所に集約し、子どもたちにもわかりやすいようにブルーとグリーンに色付けしました。





じゃぶじゃぶ池



水にうつるキラキラを手ですくってみたり、
水底のグルグル渦をじっと見つめたり、
そっと足を入れたときの
冷たくてごっごつした足裏の感触も、
園児たちにはきっとはじめての体験。
プール遊びとは違う、
「身近な水の遊び場」です。



ジャクエツ 環境事業

www.jakuetsu.co.jp